

「問題解決」と「課題実現」の共存

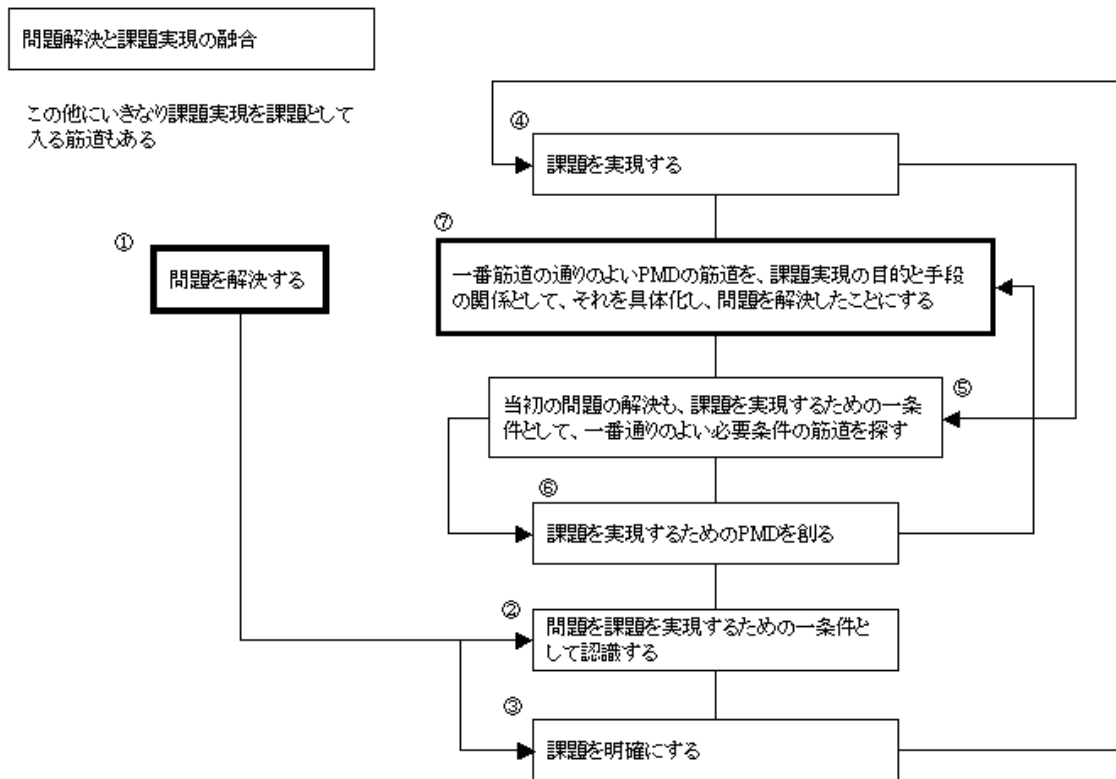
1. 問題は解決するもの、課題は実現するもの、であることの説明
2. 問題を徹底して詰めて行くと、問題が消えてなくなることがあることの説明

この内容を理解するには、差の情報による意思決定のメカニズムから説明できる **PMD** 手法の知識が必要です。

Copy right M.Esaki 2006/10

「問題解決」と「課題実現」の共存

従来、「問題を解決する」、「課題を解決する」、「課題を実現する」という表現と意味が混乱して使われています。それを、ここで示す考え方と方法で解決します。



註1：この図の表現の仕方を、目的と手段のダイアグラム（PMD：Purpose Measure Diagram）といいます。

即ち、目的が上の方に書かれ、手段が、下の方に書かれる、目的と手段の関係の繰り返しの表現です。

この図の読み方は、上の方から「・・・を・・・する」ために、「・・・を・・・する」の繰り返しで読み、この図で、目的と手段の関係が確かに繋がっていることを、確認できます。

また、手段である下の方から、上の方の目的に、向って、「・・・を・・・して、・・・を・・・する」の繰り返しで読んでみて、確かに、大よその手順（目的に対する手段の階層）として、つながっていることも確認できます。

この目的と手段のダイアグラムに関連する、「差の情報による、意思決定・判断のメカニズム」および、それに続く、課題を実現するための手順創りの方法「ステップリストの方法」の要約説明は、<http://dtn-wisdom.jp/J-Admini-Reformation/J-Admini-Reformation.pdf> をご覧下さい。

従来、「問題を解決する」、「課題を解決する」、「課題を実現する」という表現と意味が混同して使われています。

「問題は解決するもの」であり、「課題は実現するもの」です。

この2つを共存するために、どのように考えるかといいますと次のように考えます。

- ① 問題があるとき、一旦課題に戻ります。心は、それで、なにを、しようとしているのかの課題に戻るわけです。
- ② ここで、もとの問題を課題を実現するために必要な、1つの条件と考えます。
- ③ 課題を明解にします。
- ④ 課題を実現するという視点から全体を眺めます。
- ⑤ 最初の問題の解決も、課題を実現するための、一条件として、考え、課題を実現するための、一条件として、一番通りのよい必要条件の筋道を探そうと考えます。
- ⑥ そのために、課題から、課題を実現するためのPMDを創ります。
- ⑦ そうすると、最初に考えていた問題、即ち、課題を実現するために必要な条件と考えていた条件のところを 通らないで、課題を実現する筋道を、見つかることがあります。勿論、当初、問題と考えていた課題を実現するために必要と考えていた、ところを通らざるを得ないこともあります。そこを通らなくても、課題が実現できてしまうことがあります。皆さんも、このような体験をされたことがあるはず。 (これが、課題から見直すと、問題がなくなってしまうことのある現象の説明です)

以上が、問題解決と課題実現の共存の原理です。この方法を使うと、問題を細かく分析して、その原因を取り除き、問題を解決する従来からの問題解決のもぐらたたきの方法よりも、幅広く、かつ手っ取り早く、「何をするため、どのようにして」と「なぜの」質問の使いわけの方法と組合せると、課題実現の手段が、人を傷つけることなしに、実現できるようになります。

なぜからの説明は、その課題実現の効果的な方法筋道手順が確立できてからでよいのです。

詳細は

<http://dctn-wisdom.jp/J-Edition%202/J26%20app%20N%20problem-subj%20J.pdf> 「問題解決」と「課題実現」の融合を参照して下さい。